

本書に示す範囲で、設計並びに施工を行ってください。

用途	この温風暖房機は対人暖房用に設計されています。温室・養蚕室・温蔵庫・乾燥室などには使用しないでください。また常時、人のいないところにも設置しないでください。				
設置場所の温度	-20～35℃ * ただし低温域においては燃料がよどみなく供給されることが条件です。				
温度調節器の設定温度範囲	0～35℃				
使用燃料及び供給圧	形式	燃料種	供給圧		
	MHU0162GV	都市ガス13A	低圧供給(標準供給圧: 2.0kPa) 最大供給圧: 2.5kPa 最小供給圧: 1.5kPa		
LPG		低圧供給(標準供給圧: 2.8kPa) 最大供給圧: 3.3kPa 最小供給圧: 2.5kPa			
対流ファンの選定 (対流ファンは器体に装備していません。)	器体を通過する風量は、1,800～3,000m ³ /hの範囲としてください。下表の特性を考慮して、対流ファンを設定してください。				
	通過風量 m ³ /h	1,800	2,200	2,600	3,000
	器体抵抗 Pa	98	132	186	255
	昇温温度 K	18～30			
電源	単相 100V 50/60Hz				
電圧変動	定格電圧 100V ±10%以内				
必要燃焼空気量	33m ³ /h				
	不足すると不完全燃焼となります。本機を屋内に設置する場合は、有効な方法で外部から取り入れてください。				

使用できない場所

- 可燃性ガスが発生し、また滞留の恐れのある場所。
- 温泉地区など亜硫酸ガスのある場所。
- 実験研究室・印刷等周囲で化学薬品を使用する場所。
- オイルミストが舞う場所。
- プールのような塩素や湿気の多い場所。
- 高温になる場所。
- 電磁波・高調波の発生する機器の近く。
- 海岸地帯の潮風が直接当たる場所。
- 水のかかる場所や浸水の恐れのある場所。
- 大量の粉塵が舞う場所。
- 化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する場所。
- 車両や船舶など、移動するものへの設置。
- 標高1,000m以上の場所。
- 廊下・階段及び避難口。
- 可燃物の落下や、接触の恐れのある場所。
- 火災予防条例等で、火気の使用が禁止されている場所。

				認可	確認	作成
符号	改訂	年月日	点検	小山	佐久間	飛田
形式	MHU0162GV					
名称	使用範囲	図番	XRF19227	葉別	1/3	

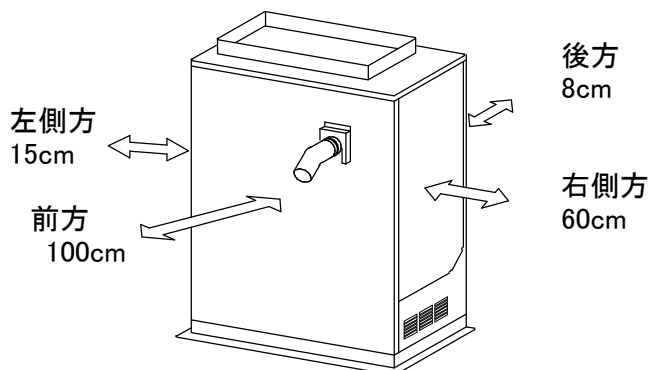
据付場所の選定

以下の事項を留意して据付場所を選定してください。

- 排気筒工事や燃料配管工事などの付帯工事に支障を生じないこと。
- 壁面設置形です。十分な強度を有する傾斜のない壁面に、アンカー等で確実に固定してください。
- 設置後の保守・点検が容易にできること。
- 対流空気吸込口から雨水や雪が侵入しないこと。
- 室内に設置する場合は、外部から燃焼用空気を容易に取り込めること。

周囲構造物との離隔距離

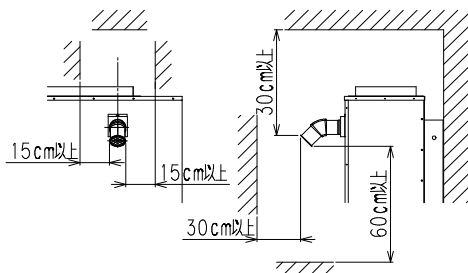
機器の保守点検や火災予防上定められた距離を必ず確保してください。



排気筒接続

* 必ず排気筒を設けて、排ガスは屋外に排出してください。

1. 排気筒の延長
排気筒を延長して設ける場合は、最大3m3曲がり以内としてください。これを超えると異常燃焼を起こす恐れがあります。
2. 排気筒施工上の注意
次の事項に注意して施工してください。
 - 延長した排気筒の途中にU字部を設けしないでください。水が溜まり、異常燃焼の原因になります。
 - 排気トップとプロパンガスボンベや油タンクとは2m以上離してください。
 - 排気トップは、集合煙突には絶対に取り付けしないでください。
 - 風が強く当たる場所への排気トップ設置は避けてください。
 - 排気トップは子供の遊び場や人通りの激しい場所へ飛び出さないように設置してください。火傷や排気トップ損傷の原因となります。
 - 排気トップは雪や落ち葉の吹き溜まりになる場所には取り付けしないでください。寒冷地においては特に積雪やつらら等により閉塞に注意してください。排気トップの閉塞は異常燃焼や重大事故の原因になります。
 - 建物の形状や周囲との位置関係により、気流の乱れが発生する場合があります。気流の乱れは燃焼に影響を与えますので、十分に開放された空間に設置してください。
3. 排気トップと周囲の離隔距離



排気トップと周囲の「可燃材料、難燃材または準不燃材料による仕上げをした建築物等」とは、左図に示す離隔距離を確保してください。

名称	使用範囲	図番	XRF19227	葉別	2/3
----	------	----	----------	----	-----

ダクト接続

以下の事項に注意してください。

- 吸込口から直に外気を取り入れる場合はホッパーを装着し、雪等の器体への侵入防止処置を講じてください。吸込口の流速が2m/s以下になるように設計してください。
- 吸込ホッパーのにはゴミや虫等が侵入しないようエアフィルターを装着してください。
- 吸込ホッパーの外気取入口は地面から1.5m以上(積雪面からは0.5m)なるように設置してください。
- 吐出ダクト接続面から雨水が浸入しないようコーキング処置を講じてください。
- その他関連法規(火災予防条例等)に従ってください。

燃料配管接続

燃料配管接続にあたっては、以下の事項に注意してください。

- 要目表や暖房機の装置銘板に記述する指定の燃料を使用してください。それ以外の燃料は絶対に使用しないでください。火災や重大事故の原因になります。
- 燃料配管中に切り子やゴミが混入しないよう注意してください。
- バーナに近いところに必ずサービス用のストップバルブを設けてください。
- 暖房機に配管の荷重がかからないように支持してください。
- その他関連法規に従ってください。

ガス配管

ガス事業法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律など

電気接続

電気接続にあたっては、次の事項に注意してください。

- 要目表や暖房機の装置銘板に記述する指定の電源を使用してください。
- また要目表に記述する電源容量に基づいて開閉器、ヒューズ並びに電線太さを決めてください。
- 暖房機専用の電源回路を設けてください。
- D種接地工事を行ってください。
- その他関連法規(電気設備に関する技術的基準を定める省令、内線規定など)に従ってください。

名称	使用範囲	図番	XRF19227	葉別	3/3
----	------	----	----------	----	-----